

近森リハビリテーション病院 臨床栄養部

科長 上村 二美

人事

2023年人も人の入れ替わりが多い1年でした。9月に管理栄養士1名が近森病院へ異動となり、その代わりに管理栄養士1名が近森病院より近森リハビリテーション病院へ異動となりました。10月には管理栄養士1名が体調不良により休職となりました。その替わり10月に近森病院から近森リハビリテーション病院へ異動となりました。

委託側のエームサービスも、パート職員2名が入職され、2名が退職となっています。

パート職員に関しては、欠員状態で業務を行っており、募集を行ってもなかなか応募がない現状が続いています。人員不足に対して、県外より管理栄養士1名の異動がありました。

栄養指導

前年度と同様に新型コロナの影響で面会制限のあるなか、感染予防を行いながら入院時には家族含めた聞き取りと栄養指導を行いました。栄養指導件数は昨年度より50件少ない537件となりました。

NST

NST活動も21年目となり、1年間のNST介入件数は467件と前年度より72件増となっています。増えた原因は整形外科の術後の患者さんが多く入院するようになりALB低値での介入が多くなっています。経管栄養の患者さんは年々減少してきており、必要量は充足できているが低栄養(ALB)が改善しない患者さん等、件数は増加しています。本年度のNST介入内容は、ALB低値、経管栄養、食事摂取量低下、褥瘡の順で前年度と変わりありませんでした。

VF検査

嚥下機能の評価になるVF検査は330件と前年度より61件少なくなっています。

1日平均1.5名のVF検査が行われ、VF検査のFAXの締め切り時間に関しても今年度も時間外オーダーはありませんでした。

まとめ

今年も昨年同様に異動や退職・入職の多い年となりました。入れ替わりの多い中でも問題点や目標に向け積極的に取り組みを行いました。そして4東病棟が看護師不足により3月16日より閉鎖となりました。4東病棟が閉鎖となったため、栄養指導とVF検査は昨年より数が少なくなっています。

今年は機能評価受審にあたり、マニュアルの変更・改定を行い準備を勧めました。昨年より変更を行った嚥下食のカリウムゼリーも嚥下委員会の承認をえて9月より提供開始となりました。喫食率は60%から80%へ上昇し、嗜好に合わないという意見は著明に減少しました。今後、嚥下食のカリウムゼリー喫食不良による血清カリウム値低下の予防につながる可能性が大きくなったと思われます。

給食関連に関しては、昨年同様に様々な食料品の値上げが相次ぎました。また鳥インフルエンザの影響で卵の商材が使用できなくなりましたが徐々に使用できるようになり、今まで使用していた商材は全て使用できるようになりました。今年は災害食を少しアレンジし(ドライカレー、アナゴ飯)の2回患者さんへ提供行うことが出来ました。

その他に「いのちのスープ」に関しては、4回の提供を行うことが出来ました。また、月1回のイベント食も昨年同様に行うことが出来ました。今年も昨年同様、コロナ感染のクラスターによりディスプレイ食器対応に追われ、欠員状態の中、家族がコロナ感染や濃厚接触、およびノロウイルスでの欠勤が相次ぐ中、時間外や休日返上してまで食事を提供してくれたエームサービスに感

謝しています。細かい対応とサービスの提供を行ってくれる委託スタッフに感謝し、今後も委託スタッフと協働しながら、より良いサービスと栄養管理を行っていききたいと思います。

表1：年の主な出来事

1月	・辰巳芳子さんの「いのちのスープ」提供 (さつまいものポタージュ)
3月	・4東病棟 閉鎖
4月	・辰巳芳子さんの「いのちのスープ」提供 (ポルトガル風ニンジンのポタージュ)
6月	・辰巳芳子さんの「いのちのスープ」提供 (アスパラガスのポタージュ)
10月	・辰巳芳子さんの「いのちのスープ」提供 (さつまいものポタージュ)
12月	・機能評価受審

表2：給食状況報告

一般食	常食	16654食	10%
	全粥	13438食	8%
	分粥食	16食	0%
	流動食	18食	0%
特別食	加算	88084食	55%
	非加算	42423食	27%
合計		160633食	100%

表3：栄養指導件数

入院指導	537件
外来指導	0件

表4：職員配置数

病院	管理栄養士 4名
給食委託業者	管理栄養士 1名 栄養士 4名
	調理師 2名
	非常勤 8名